

デジタルタイズ

ニュースレター

第28号

編集者
小島理史

「ちまっくららお

せんせん、最近新聞

サボってんじゃないの〜」

「ここ数カ月患者さんから耳に

タコができるくらい聞かされている

イマ〜いお言葉ですが...

「本当に時間が無くて

すみませんでした。」

と、言いつづかま〜い

書き出しになってしまいました

ちまっくららだけ時間が出来たので

久しぶりに筆を取ってみました。

新聞の編集が滞った一番の理由は若松は、保険適応であることに

「歯科塾YOBOL」という有志で結成

業界内は興味津々だからなのです。



しているスロウデーターグループの活動に

スワップ共々、東奔西走する日々が

続いていからなるのです。

みなさんもお存知の通り

「予防は若松」と申し

上げても過言ではない

レベルまで成長し、手前味噌では

ありますが、複数の大学の教授や

なんと海外からも

当院を見学に来る

モデル医院と

なりました。

その理由は、

多くの医院が予防を

自費診療に該当させている中で



つまり、患者さんの負担を

強いること無しで

口腔の状況を改善し、

健康を維持することが

当院では出来ているのです。

この「秘伝・若松流」の基盤は

衛生工がフリーニングの際に行う

パソコンのプチ授業です。

正直、その中身は、

どうしても良い様な

カエルやサメの歯の話

だったりするのですが、

この「トリジウム」が

極めて重要なのです。

一見役に立ちそうもない話であって

皆様が生活の中で歯を意識する時間

が増えることで、ある変化が生まれます。



「そうだ！」

「今日とミリに行こう！」

(JR東日本ではありませんが...)

残念ながら、キャンセルがなければ

当日中に歯石を

取ることは、

不可能に近い若松ですが

定期的にクリーニングすることで

自覚症状のない軽度の炎症であれば

痛い思いをすることなく健康な状態に

戻すことが出来ます。

組織学的には、

直径0.1mmの

歯石が付き始めた

段階で粘膜上皮の破壊が始まり

細菌学的には、歯周病菌が好ましい

速さで繁殖を始めています。



免疫学的には、

歯グキの内部は

白血球は歯周病菌の

合戦場になり、放置すれば

歯を支えているコラーゲン線維が

破壊されてしまうのが歯周病です。

多くの方は、歯周病に関してあまり

わけている様ですが、そのメカニズムを

きちんと理解さえすれば、予防方法は

見えてくるのです。

先程「放置すれば」と

お伝えした様に

歯グキが赤く腫れたり

膿が出る前の初期の段階で

クリーニングによるリセットを行い

完璧な歯磨きを行えば、歯グキが悪

くなることはほとんどないのです。



ですから、日本歯周病学会は

「3ヶ月に一度、クリーニング」

と言っているのです。

さらにお口の中を清潔に保つことで

歯科のみならず、医科を含めた国民の

総医療費を減らすことが出来ること

私は、確信しているのです。

なぜなら、『癌』の中でも口腔がん、食

道がん、腎臓がん、すい臓がんは、疫

学調査にて歯周病との因果関係が

証明され、肺がんやインフルエンザに

至るまで、歯周病が引き金を引くと

言われているからです。

事実、クリーニングに

通いだしてから糖尿病の

数値が安定している

という患者様もいらっしゃるかと田中先生



複数のお医者さんや

看護師さんたちが

ニコニコしながら

歯石を取りに

若松にやって来るのが、

『論より証拠』なのです。

(残念ながら個人情報ですから

ドクターの名前を明かすことは

出来ませんが…)

この若松流予防歯科の奥義を

当院だけで終わらせてしまって

良いわけがありません。

私は、数年前から

これを全国に

広めなければ、

歯科医師になった

本当の意味がない！



と考えるようになりました。

『何とかして他の医院に伝授したい』

という思いから、やる気のある全国の

歯科医師たちに若松流予防のスマ

メモ当院のスタッフの手を借りながら

歯科塾の中で

免許皆伝しようと

活動を開始して3年、

ようやく軌道に乗った

感じが出てきました。

しかし、時には悲しい

出来事も起きてしまいます。

実は、若松の開業以来、四半世紀の

長きにわたって勤務してくれていた

受付の羽根さんが、この春を境に

退職することになりました。



影で支えてくれたまことに

『若松の母』とも言える

彼女の存在は大きく

スタッフだけでなく

患者さんにも

ファンが多い

ものですから

その穴を埋めるのは

並大抵のことではありません。

皆様にご迷惑をおかけしなければ

良いのですが…

と心配しております。

そんな彼女から

手紙を預かりました

ので待合室にて

紹介させていただきます。

また、文中にもありますように



今後、患者さんとして

当院を受診し

キレイな歯で

いつまでも

病気とは無縁の

若々しい生活を送る

予定でいるとのことですから

彼女を見かけた際は、気兼ねなく

お声をかけて頂ければ幸いです。

ドクターやスタッフに直接言いにくい

ことも伝えて頂ければ、

今度は彼女が、皆さんと

同じ患者さんの

立場から適切な

助言を私たちに

与えてくれることと

思います。



もちろん、この春の若松は、悲しい

ことばかりではありません。

若松の衛生士が、ボランティアで

10年近く無償で続けていた

文花と瑞木小学校での

理科の実験授業を

市長や教員自長が

『これからの

市民生活に予防は

不可欠なもの』として

認めてくださり、歯科衛生士単独でも

日当が出ることになりました。

顔面はさて置き、行政が認めると

いうことは本当に嬉しいことなのです。

正直な話、行政を動かすためには

長い年月がかかります。しかし学校が

教育の場であることを考えれば、



『予防教育の充実こそが

学校において必要なことであり

多くの病人を減らし

未来の日本を救う！』

と言っても過言ではないと思います。

今後は、多くの小学校において

若松の歯科衛生士たちが築いて来た

事を真似しながら、より良く発展させ

スウェーデンに負けない

予防教育先進国に

なることを夢見ております。

これから始まる

予防重視の時代に

欠かせない

歯科衛生士たちの

パワーが楽しみです。ね。

文リ院長 小島

絵 植竹

